東奥日報社提供

東　奥　日　報
2022年（令和4年）8月9日（火曜日）（18）

ジャズと邦楽コラボ

民謡を自動装置で譜面化

八工大で特別授業

八戸　八戸工業大学大学院の小坂谷壽一教授が開発した「自動採譜装置」の研究成果を披露する特別授業が、八戸市の同大で開かれた。世界的に著名なジャズピアニストのデビッド・マシューズさんが、同装置で作られた民謡２曲の西洋譜面を見ながらピアノを演奏し、津軽三味線奏者・民謡家の松田隆行さん＝同市出身、仙台市在住＝が三味線演奏と唄を披露。受講した学生たちは、邦楽とジャズのユニークなセッションを楽しんだ。

（千葉真由美）

自動採譜装置で作られた西洋譜面を見ながら「田名部おしまこ」をピアノ演奏するマシューズさん㊨と唄を披露する松田さん

小坂谷教授は13年前から同装置の研究を始め、6年ほど前から装置を活用して松田さんが三味線演奏した民謡を譜面化し、師匠からの口伝が中心だった邦楽の伝承に取り組んでいる。

7月28日に開かれた特別授業には同大の学生と教職員ら約１２０人が参加した。１曲目の「鯵ケ沢甚句」ではジャズアレンジを加えたマシューズさんのピアノトリオの演奏と、松田さんの三味線が共演。「田名部おしまこ」では、松田さんがマシューズさんの横に立ち、ピアノ演奏に合わせて朗々と歌い上げた。

授業に先立ち松田さんは「民謡は複数の楽器がユニゾンするものだが、ジャズアレンジされると民謡にはないコードが出てくるのでどうなるか」と緊張している様子だったが、歌い終えてからは「やっているうちに気持ちよく歌えた。楽しい時間だった」と感想を語った。

マシューズさんは「とても面白かった」と笑顔。小坂谷教授は「自動採譜した譜面を使った邦楽と西洋音楽のコラボ実現は世界初。従来は譜面がないため不可能だった。素晴らしい演奏だった」とたたえた。

※「この画像は当該ページに限って東奥日報社が利用を許諾したものです」